

教師の仕事

～ 奉仕 ～

副塾頭・事務局長 鈴木重男

教育基本法

第9条 法律に定める学校の教員は、**自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。**

教育公務員特例法

第21条 教育公務員は、その職責を遂行するために、**絶えず研究と修養に努めなければならない。**

第22条 教育公務員には、研修を受ける機会が与えられなければならない。

2 教員は、授業に支障のない限り、本属長の承認を受けて、勤務場所を離れて研修を行うことができる。

国立及び公立の義務教育諸学校の教育職員の
給与に関する特別措置法（**給特法**）

**4%の教職
調整額**

北海道教育委員会
教師の仕事：サービスの宣誓

宣 誓

私は、ここに、主権が国民に存することを認める日本国憲法を尊重し、かつ、擁護することを固く誓います。

私は、地方自治の本旨を体するとともに、教育を通じて国民全体に奉仕すべき責務を深く自覚し、教育に従事する公務員として誠実かつ公正に職務を執行することを固く誓います。

教師の仕事

絶えず研究と修養に励み、国民全体に奉仕すべき責務を深く自覚して、その職責の遂行に努めなければならない。

勤務時間を
フットバセ!

奉仕

教師の仕事

若手

中堅

指導的
立場

奉仕

ひたすら職務遂行
新視点で挑戦
外部刺激を受入

学校の活性化
確実な教育成果
教育団体等に寄与

教育的責務に対応
法令の遵守
社会に貢献

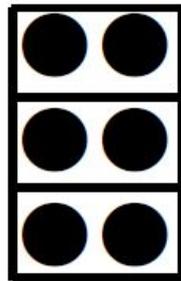
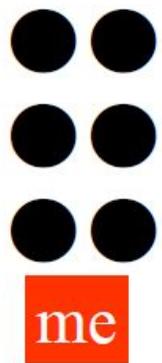
絶えざる研究と修養

インセンティブ

自己実現

若手教師：1970年札幌盲学校奉職 鈴木式点字触読指導法の工夫

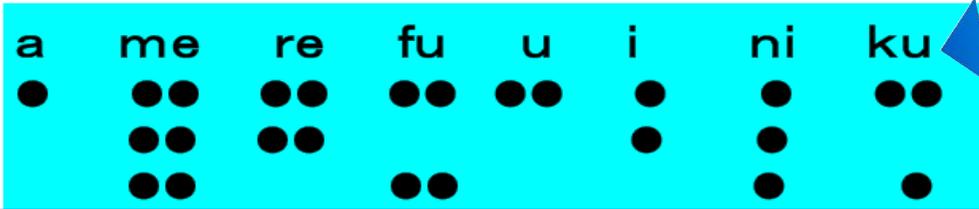
ルイ・ブライユが創作した触覚文字:フランス語



ISHIKAWA
kuraji
石川倉次
(1859~1944)
日本点字の翻案
1890年11月
1日に、正式採用

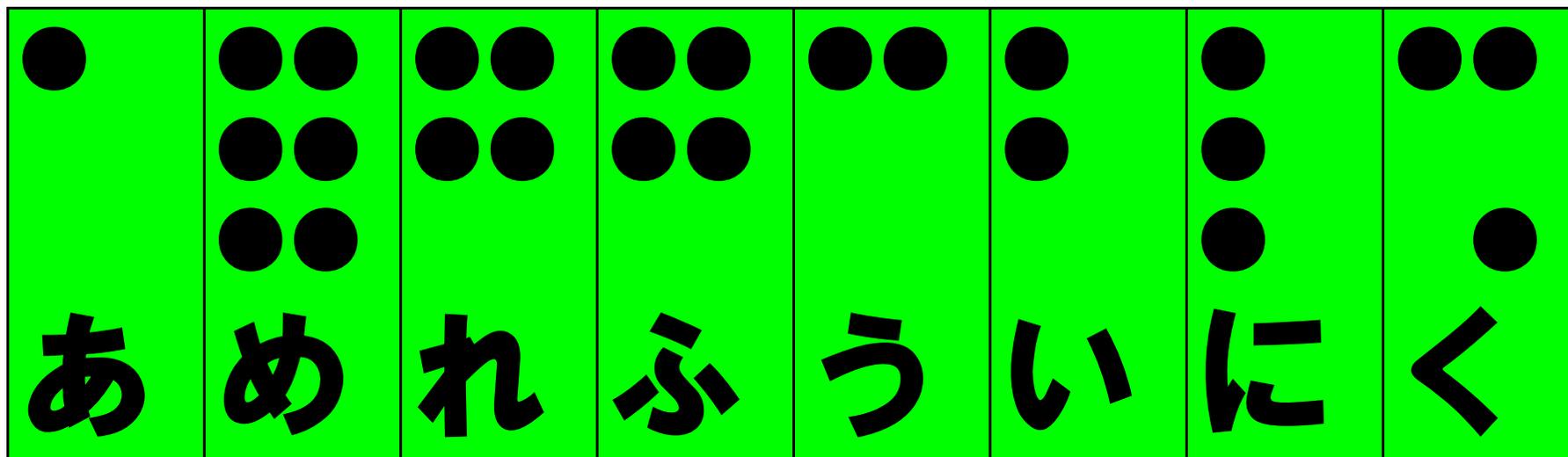
中途失明の教師が複数名、
退職し、
北海道札幌盲学校で、
理療師を目指し、
点字教科書ではなく、
テープレコーダーで学習

新しい発想
盲学校小1の
点字触読実態を
整理・分析・考察
中途失明者の
点字触読指導に



点字の形にも着目

鈴木式点字触読指導法



鈴木式点字触読指導法を確かめよう

点字シートの赤筋が入っている方を、左側にしてください。

点字は、左手の人差指で触読、どの指でも結構です。

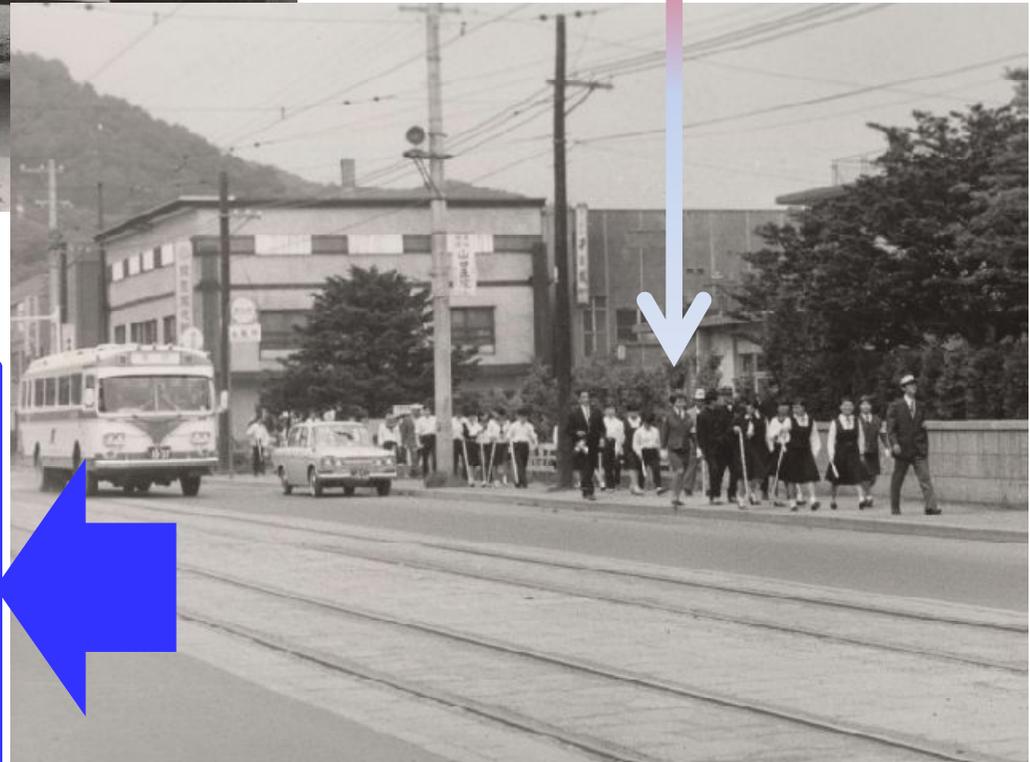
左から右に動かします。

指紋の中心部と爪の先端部の間で、触読します。

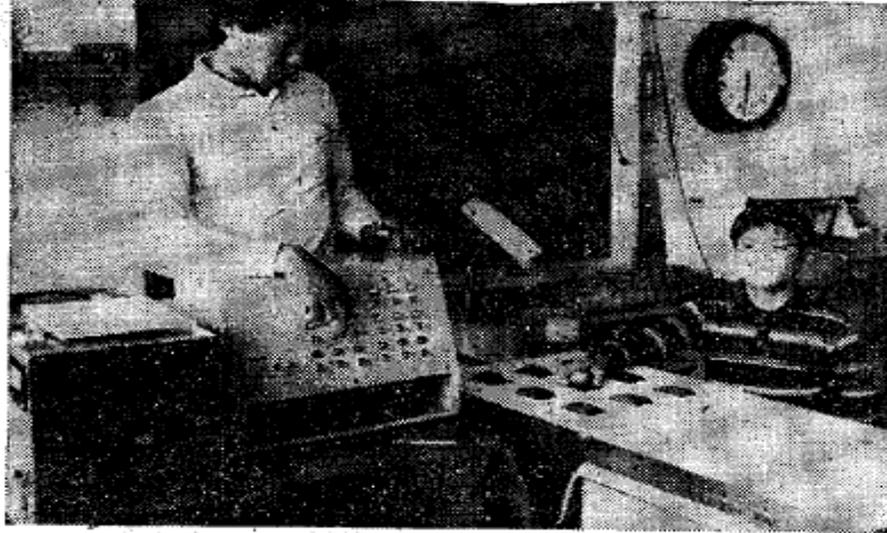
昭和45年当時、札幌盲学校中学部の歩行指導



集団での歩行指導
(交通安全教室と似ている)
携帯用スライド式白杖



個別化した
組織的・計画的な
歩行指導が必要
Orientation & Mobility



目の不自由な 子らに朗報

目の不自由な生徒達が安全に横断歩道を渡れるように、道立札幌盲学校(北海道札幌校長・生徒数百七十五人)の一訓練士が「音」と「振動」によって交差点での車の流れを判別させる画期的な機械を開発した。名付けて「感覚訓練用反応装置」。いわば、聴覚を利用した交通安全教育装置だが、日本ではもちろん、世界でも初めてのものと目されている。

画期的な交通安全教育装置

「音」と「振動」を利用 車の流れ判別させる

この機械を開発したのは同校の鈴木直雄先生(50)「感覚訓練士」。

1. 同校では小、中、高等部とも実際に生徒達が街頭に出て横断歩道を渡る訓練をしているが、教室

この感覚訓練用反応装置の発明と
なった。

仕組みは天井と壁に付けられた十八個のスピーカーから順序を追って音を流し、音の動きに対する感覚を身に付けさせようというもので、音は前から後、後から前、右から左へ、左から右へと四方方向のほか、前から斜字型へ右へなど、交差点の実際の合流を八方向へ流れるよう工夫されている。

音は電音発生器で、合成、スピーチの操作で自由にどのスピーカーからでも音を出せるようになっており、交差点での車の流れを再現出来る。また音の流れをつかみにくい小学部の児童達には、音

盲学校の鈴木 先生が開発

の出ているスピーカーを示す九個のバイプレーターボタンも車上に付けられており、どの方向で音が出ているか手でも判別出来るようになっている。

鈴木訓練士は「目の不自由な人は音感が発達していると考えられがちだが、必ずしもそうではない音感が発達すると車の動きでも手にとるようになるので、まず音感を体納させる訓練方法はないかと考え、この機械を開発した」と話す。

製作費は十二万円かかったが、札幌ライオンズクラブ(中校会長)が、同クラブの奉仕活動の一環として全額寄付、市内の業

者に依頼、製作した。すでに道開前から全盲の子供達を対象に訓練を始めたが、盲、身の安全を守るとあって真剣なもの。

三十一日には札幌ライオンズクラブから同校への贈呈式が行われ、中校会長、井上交通安全委員、会役員等五人が、この、交通安全教室を訪れ、見学、生徒達の訓練ぶりを見守った。中校会長も「ドライバーの中には目が見えなくても止まってくれない人がいる。危険に増え続ける交通事故から身を守るためにも、大いに役立つはず」と話していた。

**道路環境の状況把握を
交通音で理解できるようにするため、
音声合成機器と18個のスピーカー、
18個のスピーカーと対応振動ボタンを
組み合わせた装置を設計**

内でもめる程度、基礎訓練が出来ないかという工夫した結果、交通安全教室に設けられた感覚訓練用反応装置と鈴木先生

(左)

若手教師
雪路補助具を開発
先天盲児・早期失明児の歩行訓練



先天盲児および早期失明児への歩行訓練
 プログラムの過程的試行

鈴木 重男

視覚障害研究

研究

盲および視力障害者の職業リハビリテーション……行田 忠雄…… 1
 盲人のための授産施設……田中 亮治…… 12

特別寄稿

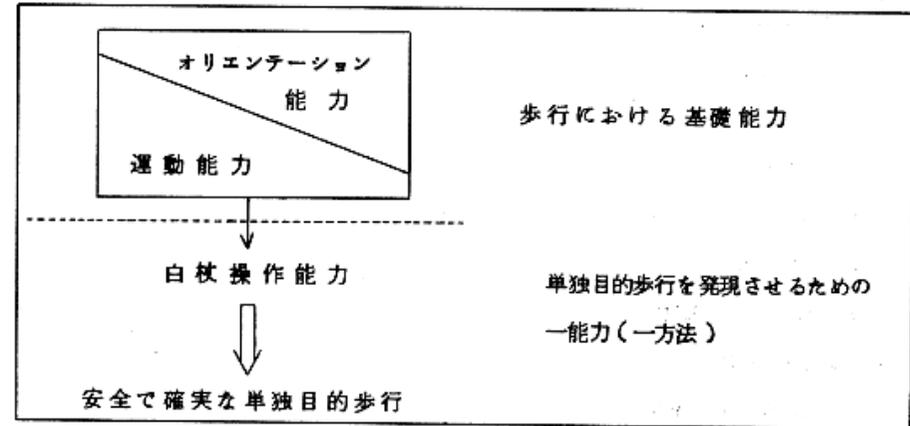
先天盲児および早期失明児への歩行訓練プログラムの過程的試行
 ……鈴木 重男…… 23
 ネパールにおける眼科医療の概略……異住 格…… 45
 資料紹介…… 53

1975年2月 第 2 号

日本ライトハウス
 職業・生活訓練センター

はじめに

盲児の単独目的歩行は、運動能力とオリエンテーション能力の輻輳したものと考えられる。更に安全性・社会的に容認された姿勢、歩行速度、情報の入手等の内容までも含めると白杖操作技能の三つが盲児の単独目的歩行を成立させる基本的能力と考えられる。これを図示すると



となる。

1. ボディーイメージ要素
2. 方向概念要素
3. 対音源歩行要素
4. 音源軌跡要素
5. 歩行軌跡要素
6. 対風、対太陽に対しての身体の方角づけ要素
7. 空間構成物の関係把握要素
8. 白杖探索要素
9. 白杖操作要素
10. 歩行標識と点地図作成要素
11. 読図歩行要素
12. 雪路白杖操作要素

統合教育 Inclusion in Educationの自主研究

1972年
高雄市

1970年
韓 繼綏老子
台湾の台南駅



台湾の統合教育 1960年代から台湾とマレーシアで
American Foundation for Overseas Blind

1971年
台中市

◆ 中途失明生徒の普通高校への復学

我が国初の点字を用いた高校生

【事例の概要】

T男は昭和27年11月生まれで、小学校、中学校、昼間定時制高校と普通の学校に進んだが、昭和47年9月頃から視力の減退を自覚し、昭和48年2月にH大学病院において、多発性硬化症と診断され入院治療を行なったが同年8月、症状が一応落ち着いた事により退院、同年9月に再適応訓練のためにA高校を休学のまま、札幌盲学校に仮在籍の形をとって入学した。

T男の視力は、右-0.01、左一眼前手動弁（昭和48年8月）であった。又学力は、A高校において中位であり、運動能力は、平衡性に多少劣るところがあったが、上位に位置されたT男は、完全失明になるであろう自分の姿を知っていたが、それに耐え現在の自分を何とかしたいという意欲が旺盛であった。その事が本人にも、指導する者にもよい影響となって現われてきた。現在はA高校に復学し、昭和50年3月に卒業の予定であり、その後は高等盲学校の2部専攻科に進む予定である。

結果 A高校における前期テスト結果は、中程度であった。

学習方法は、①点訳教科書の使用、②教科担任が作成した録音テープの使用、③テスト、論文についてはカナタイプライターの使用、④拡大文字、図の使用、の4点になっているが、充分なアフターケアが出来ないために種々の問題も出て来ている。

- ①数学における持続した計算、式変形、原理の図解
- ②理科における実験、模型
- ③体育における、体から離れる道具を用いた教材
- ④板書、オーバーヘッド等による図、式の説明

ではあるが、A高校の担任が言う如くに「これらの問題点があるにはあるがそれは仕方のない事であって、T男のこれからの生活、又他普通生徒への影響を考えると、引いてもなお余りある事ではないだろうか」と言うのがまとめである。

（鈴木重夫）



教育団体等への寄与

【札幌蹴球団の創設当時のあゆみ】ホームページより

昭和45年(1970年)元北海道サッカー協会副会長の鈴木重男氏や鈴木徹氏、川崎聖夫氏、松尾幸雄氏ら札幌大、札幌大、北学園大等のOBが中心となって設立しました。

昨年まで団長

- 昭和47年 札幌サッカー協会常任理事
(昭和61年3月まで 札幌リーグ運営委員長、技術委員長)
- 昭和60年 北海道サッカー協会常任理事
(平成10年3月まで 国体成年の部監督、技術委員長)
- 平成10年 財団法人北海道サッカー協会理事
(平成18年10月まで 常務理事、副会長)

技術委員長として、サッカーの選手強化、指導者養成、普及事業
B級ライセンス取得で、新陽高校 盛田先生を派遣し、指導者養成の組織化を図る。
経済界の榎原泰明元会長、村井将一前会長に「目標管理」等を学ぶ。

新陽高校と山の手高校サッカー部がボランティア活動

昭和51年(1976年)10月13日

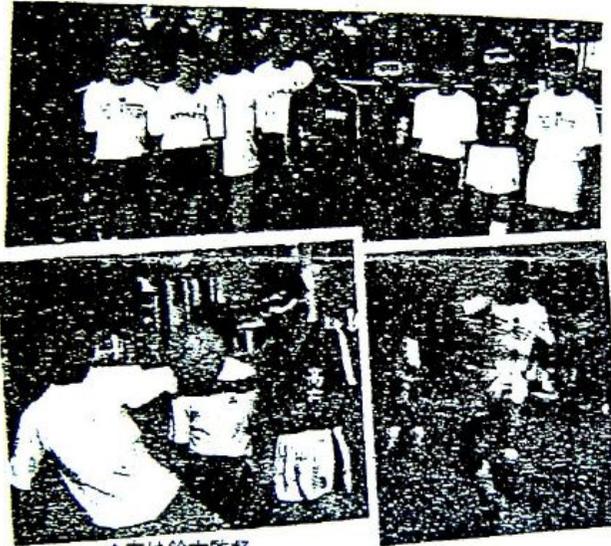
若手教師

成年男子一般▽監督 鈴木
 ……サッカー…
 重男(道高等盲学校)▽選手 井
 畑良孝、井門公雄(以上札幌市役
 所) 木村淳志、三塚秀勝、荒木志
 郎、坪田泰明(以上藤山倉庫) 枝
 並義能(菊水運輸) 中井裕孝(ラ
 リヂストンタイヤ札幌販売) 藤谷
 卓生、大久保勝広(以上大進機
 工) 河本哲夫(カワモト警機) 萩
 原鶴雄(中栄) 空美紀雄(テロッ
 プサーピス) 吉岡康治(エイブル
 ウエア) 紺野昭(ネッスル日本)



**昭和51年度
 佐賀国体成年の部
 2名の聾学校卒業生
 社会的統合**

昭和57年 高盲サッカー部の高体連加盟



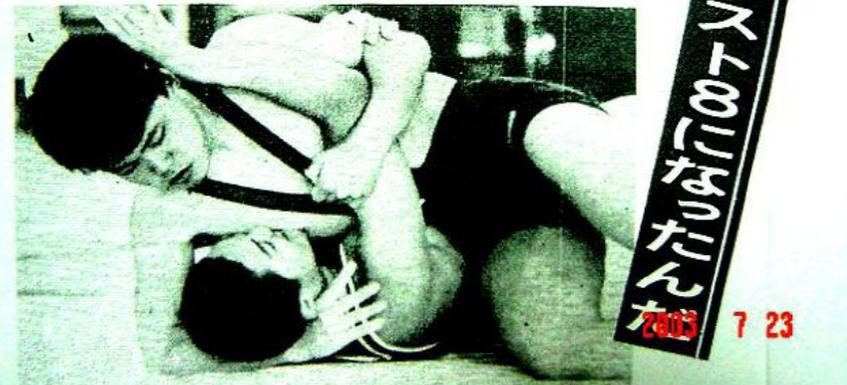
▲左は鈴木監督

「目」が見えなくても
サッカーはできる
高体連に加盟した
北海道高等盲学校

昭和58年度 最初の全道大会での勝利

決めた1回戦 フォール勝ち

視力0.03以下 道高等盲学校の石本選手



中堅教師 部活動

サッカー → レスリング

北海高等学校：早坂先生
第一高等学校：渡部先生
岩見沢農業高校：井上先生

国体群像

なフオール勝ち。しかし、
競技歴は極めて浅い。
札幌稲高三年のとき始めたの
ですが、大学(北星学園)では
全くやらず昨春の卒業後、再び
やり始めたのです。いわば素人
です。これといった得意技もな

サッカー成年男子監督の
鈴木重男さんとともに道高
等盲学校のレスリング部を
指導している。2回戦で元
学生チャンピオンの佐藤新
選手(奈良)に取れたもの
の、初戦は一分39秒に見事

弱視を「フオール」



内障で、左目は光がよや
くわかる程度。右は裸眼で

る鈴木さんが、一年半ほど
前に生徒たちにレスリング
を教え始めたのを聞いて手

く、相手を倒して肩をマットに
つけることしか考え
ません。

〇〇六、矯正しても〇
三の視力にしかならない。
札幌盲学校時代の恩師であ

Comment

A special forum for individuals to respond in detail to material published in the Journal of Visual Impairment and Blindness or to raise issues which relate to the specialized field of work with blind and visually handicapped persons. Contributions should be 350-1000 words in length.

Winter Traveling in Hokkaido Land Japan

Sigeo Suzuki

Hokkaido High School for the Blind,
Fushimi, 4 Chome, Sapporo, Japan.

Translated by Hitoshi Shintani

Hokkaido, the second largest island in Japan, is located in the far north of the islands; at 45 degree latitude and 138

systems which may be of interest in similar climates.

1. Attachment for white canes: to prevent the tip of the cane from penetrating snow, I invented several attachments which enable the blind person to walk easily, even swiftly, through the snow. These attachments will not penetrate the snow; can slide on the snow; and can be taken off and put on easily.

No. 1 and No. 2 cane (Figure 1) came in 1971. But it was made of plastic and was too slippery. In 1972, I cut the end of the "spuit" made of rubber and put it into the tip of the cane, developing Number 3 and

中堅教師



**3年間の雪路パターンの定点観測
(写真記録→カテゴリー分析)
降雪時期ごとの雪路パターンの抽出**

中堅教師



Sonic-Guide
超音波メガネ
中途失明生徒への
描画指導

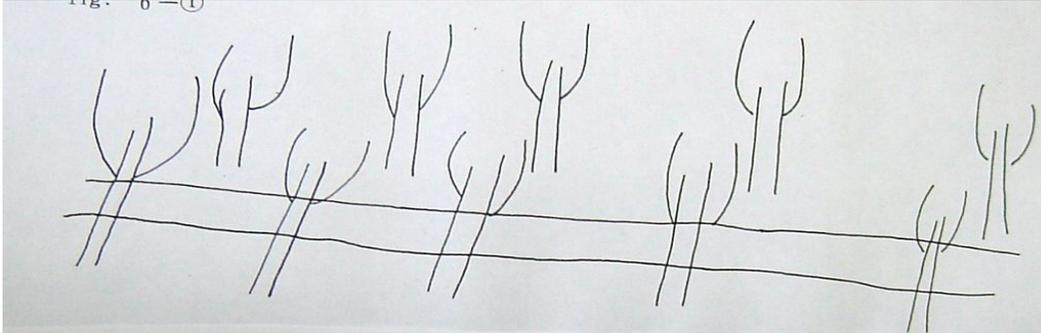
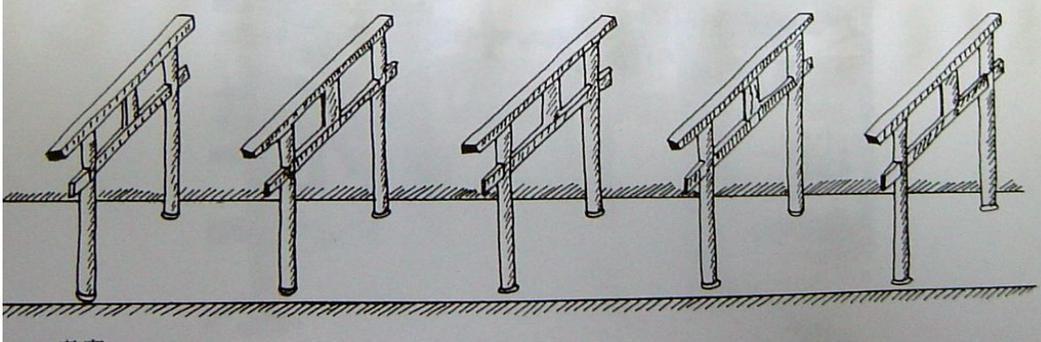
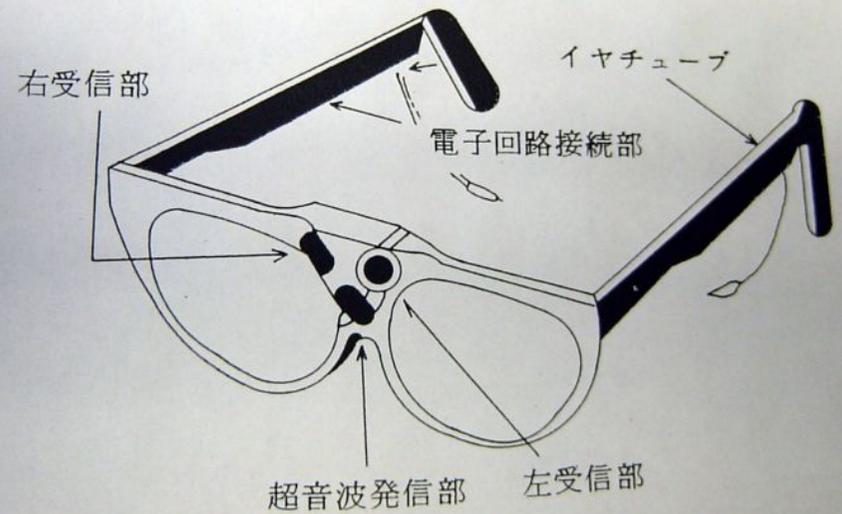


fig. 6-③



1. ソニックガイド(耳で見る変換器)



Evaluating Methods for Teaching Orientation and Mobility with Sonicguide

Sigeo Suzuki

Hokkaido High School for the Blind, 4-21, 4-chome, Fushimi, Chuo ward, Sapporo, Japan

Abstract: Sonicguide (S.G.) serves the function of "an eye" for blind persons. To make most effective use of the Sonicguide, trainers must evaluate training methods. This report introduces one way of evaluating training with S.G., through the handling of miniatures and of schematic drawings.

The Function of S.G. for the Blind

Persons who are using S.G. can be divided into two groups: early, congenitally blind persons and later, adventitiously blinded persons. The type and level of their impairment requires different training methods.

Using S.G., newly blind persons must learn to make their visual images correspond to their experience when they could see. On the other hand, congenitally and early blind persons must first grasp spatial concepts, and get a sense of when they actually are. My aim in training blind persons with S.G. is to enable them to grasp their

The Evaluation of Dealing with Information Provided by S.G.

There are five basic ways to evaluate how to teach blind persons to deal with information provided by S.G.

1. Trainer observation of how the user behaves in his/her environment.
2. Trainee oral reports on their environment to their trainers.
3. Trainee written impression of the environment.
4. Trainee expression of visual images by making miniatures to show spatial concepts via S.G.

they have walked. With magnets attached to the bottom, these miniatures can be easily put on, taken off, or rearranged on an iron board. The most useful miniatures are:

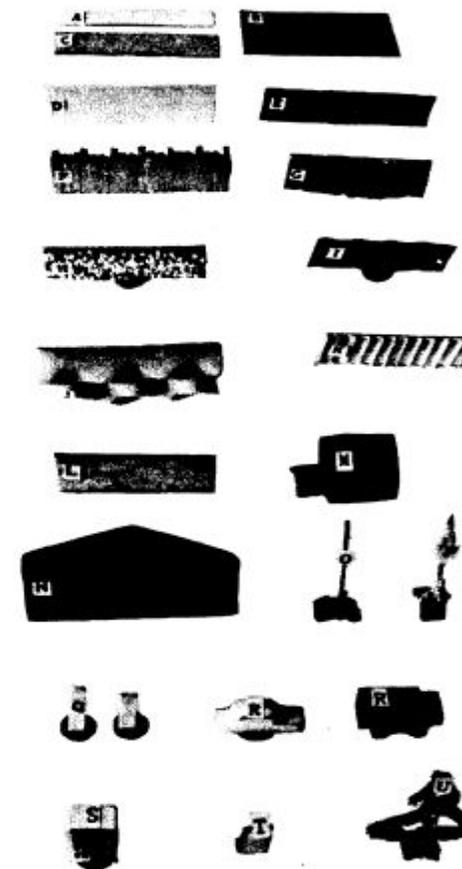


Figure 1. Examples of attachment

中堅教師
1986年



LOUISIANA TECH UNIVERSITY
RUSTON, LOUISIANA

Professional Development and Research Institute on Blindness

Suzuki, Sigeo. "Evaluating Methods for Teaching Orientation and Mobility with Sonicguide." *Journal of Visual Impairment and Blindness* (January 1986): 537-8.

Coll
In
Cale

**校長
旭川盲学校**

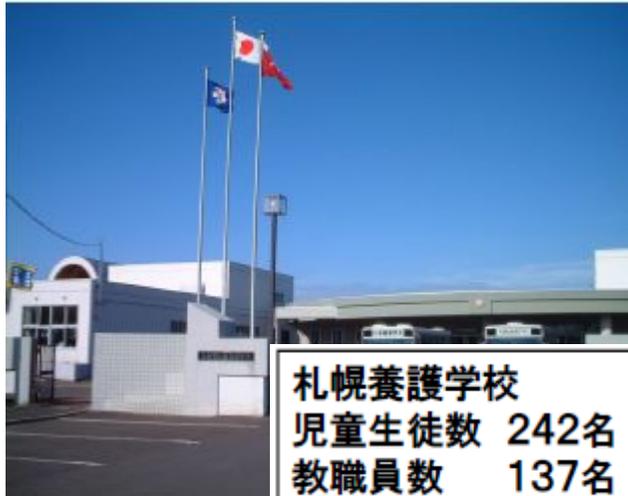
**社会貢献等
若手教師時代の
ノウハウ等
活用**

**中途失明者の
点字触読指導
白杖歩行指導**

(22歳♂ 平成13年12月8日、落下事故で両眼完全失明)
午前六時半から校長室で鈴木式点字触読指導法で指導

平成14年

- 2/6 ○病院内での点字独習資料の提供：兄に点字学習法等を指導
(点字シート・テープ対 No.1 アメレフウイニク No.2 コカオヨ)
○退院後などの室内歩行及び点字指導等の支援協力を約束
- 5/25 ○点字触読のチェック (アメレフウイニクコカオヨ)
・触読方法チェック (左人差し指先側での縦動かしの触知法)
・点字触読字数のチェック (アメレフウイニクコカオヨヲヒリ)
- 5/29 ○点字
・濁音指導
- 6/6 ○点字触読練習 (五十音清音、濁音)
○パーキンスプレーラーでの打字練習
- 6/12 ○点字触読テープと対 (拗音、濁拗音、半濁拗音、数字)
○パーキンスプレーラーでの打字練習
- 6/19 ○点字シート (大きなカブ、象の鼻はなぜ長い)
○パーキンスプレーラーでの打字練習
- 7/3 ○点字触読チェック (清音読みでは、1分間20文字程度)
○点字シート (ブレメンの音楽隊、金のガチョウ)
- 7/10 ○点字触読チェック (触読速度 16L/1min.)
○点字シート (三匹の熊)
- 7/17 ○点字触読チェック (触読速度 13L/1min.)
○点字シート (自分を掘り起こす生き方：今回のみ)
- 7/24 ○点字触読チェック (触読速度 19L/1min.)
○点字シート (100の名言「エジソン」前半)
○宿題：英語一覧を覚える
- 8/7 ○点字シート (100の名言「エジソン」後半)
○特殊拗音 (ティ、ファなど) の読み
- 8/21 ○無意味綴り72文字を3分25秒で、触読速度 22L/1min.
- 8/28 ○無意味綴り72文字を2分55秒で、触読速度 25L/1min.



札幌養護学校
 児童生徒数 242名
 教職員数 137名



もなみ学園分校
 児童生徒数 56名
 教職員数 41名



共栄分校
 児童生徒数 20名
 教職員数 24名

校長

<2> 意識改革

北海道新聞2006/03/01(木) 朝刊
 教育「希望を求めて」
 第2部 保護者の視線

沈黙破り本音で提案

昨年十二月十五日朝、札幌市南区の札幌養護学校もなみ学園分校で開かれた保護者説明会。会場に集まった保護者十数人と教員側の間に、微妙な緊張感が漂っていた。

議題は、授業時間の延長について。「この学校には信頼感がない」「良心的な部分が欠落している」「仕事をしたくないのか」。保護者たちは、うっせきした不満を一気にぶちまけた。

怒りの原因は、教員側が作成した説明資料にあった。「現行のままでいい」「延長要望はあがっていない」「教育的効果は期待できない」など、親の期待とかけ離れた教師たちの見解が羅列されていたからだ。

二時間半に及ぶ激しい議論の最後、授業延長に積極姿勢の札幌養護学校の鈴木重男校長(59)は「やるべきことはやる方向で考える」と断言。今年一月から小学部一―三年生の授業時間を週一時間延長し、全児童・生徒を対象に下校時間を十分繰り下げるなどした。



保護者の手によるアンケートで、授業時間延長が実現した札幌養護学校もなみ学園分校

**学校教育法
 第37条の4
 校長は、校務をつかさどり、所属職員を監督する。**

教師の仕事

絶えず研究と修養に励み、国民全体に奉仕すべき責務を深く自覚して、その職責の遂行に努めなければならない。

勤務時間を
フットバセ!

奉仕

自己実現

退職後：社会貢献等
教師時代のノウハウの活用

障害児・者ボランティア活動
北海道チャレンジド・サッカー連盟
新陽高校と
北海道文教大学チャレンジド・スポーツ
教室
札幌大学チャレンジドスポーツ教室と
学習塾

2009年

- 韓国特殊教育学会秋季大会での
発表と論文掲載
- 国立ソウル盲学校での講演

특별지원교육의 도입 後

일본 특수교육서비스 전달체제의 변화

特別支援教育の導入とその以後の
日本の特殊教育サービス伝達体制の変化

教師の仕事

研究
・
修養
奉仕

インセンティブ

自己実現